

# 第5回 天竜川総合土砂管理計画検討委員会【下流部会】

## 議事要旨

日時：令和4年5月17日（火）15:00～17:00

場所：WEB会議

1. 開会
2. 開会あいさつ
3. 委員長あいさつ
4. 議事

### 4.1 天竜川流砂系総合土砂管理計画モニタリング調査結果の概要

- ・計画策定後の土砂供給量の推定は重要である。総合土砂管理計画として通過土砂量を管理していくためには、計画で使用しているシミュレーションに対し、実績値を踏まえてシミュレーションの精度向上に取り組むとよい。
- ・佐久間ダムの湖底ではヒ素が多いが、嫌気化していないか。ヒ素については発生源を確認する必要がある。また、整理方法として、堆砂縦断図、粒度構成と併せてヒ素濃度をプロットし、いつの時代にヒ素が溜まったのか確認するとよい。
- ・海岸の範囲は、静岡県、愛知県の海岸保全計画と整合させること。
- ・河床高縦断図には、河川管理に生かす視点が必要なので、最深河床高や護岸の根入れ高を合わせてプロットするとよい。

### 4.2 置土モニタリング調査結果

- ・今後、置土量を増やした際の流量と流下土砂量の関係が整理できるとよい。
- ・置土に対するインパクトレスポンスについて、どういったシナリオを考えてこの調査を実施しているのか整理が必要である。例えば、置土は砂なので、礫間の目詰まりが生じ、付着藻類の上に細粒分が堆積することで総量が減りアユに影響するなど、ハビタット（礫環境）の変化が生物への影響になるのではないか。
- ・天竜川は、置土や佐久間ダムの還元をすることでより「濁りが増える」というベクトルではなく、粗い土砂が増えることで川の中のフィルタリング効果が働き、自然由来の川のように再生される等という観点でモニタリングや評価を考えるとよい。

5. 閉会あいさつ